

来週の“売り物”記事はこれ



2013年10月11日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

被災地 南相馬の戦争秘史 特攻隊員[哀切の記憶] 朝刊 13日(日)



福島県南相馬市原町区。福島第1原発の事故で一時は大勢の住民が集団避難を強いられました。町の小高い丘の上に特攻隊員の慰霊碑が建っています。将兵は南の海に散りました。なぜ、東北の地に——。原町にはかつて陸軍の特攻隊員養成の訓練基地がありました。ここで訓練を受けた二十歳前後の若者たちが鹿児島などの特攻基地に向かい、そこから敵艦めがけて飛び立ったのです。つまり、「死ぬため」だけの訓練地でした。戦死者の慰霊碑といえば、戦友会などが建立するのがふつうですが、原町の慰霊碑は往事を知る地元の人たちが中心になって建てられました。その一人、84歳の女性は特攻隊員から寄せられた手紙をいまでも大切にしているといいます。切々と訴えるような文字は、70年近い年月を経てもなお読む者の心を揺さぶります。高い放射線に苦しむ被災地から、歴史の波間に消えかかろうとしている「秘史」を掘り起こします。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

認知症高齢者の列車事故

「家族に720万円の損害賠償」判決は妥当？

夕刊2面特集ワイド 16日(水)、17日(木)



2007年12月、愛知県に住む認知症の男性(91)がJR東海道線共和駅で線路内に入り、列車にはねられて死亡した。JR東海は男性の遺族に振り替え移送などに伴う損害賠償を求め、今年8月名古屋地裁は720万円の賠償金を支払うよう求める判決を下した。この訴訟や判決に対して「認知症の現実を知らないのでは」という声があがっている。高齢社会で他人事ではいられない今回の問題についてさまざまな角度から考える。

「おもてなし」の心とは くらしナビ面14日(月)

今、話題の「おもてなし」。心のこもったおもてなしをするには、どんなことに気をつけたらいいのでしょうか。来客前の準備に始まり、料理の出し方、姿勢や動作などの立ち居振る舞いまで、奥深い「おもてなし」の心に迫ります。「和のおもてなし」のプロフェッショナルともいえる、老舗旅館の女将に基本の心得を2回にわたって聞きました。



「夫が転勤！」その時、あなたは？ くらしナビ面16日(水)



政府は国家公務員が配偶者の海外転勤についていく際、最長3年の休業を認める新しい制度の創設を決めました。同じような制度を取り入れる企業も出始めています。結婚後も仕事を続ける女性にとって、夫の転勤は大きなハードルです。新制度は働く女性にとって福音となるのか、検証しました。

簡単、キレイな栗のむき方 くらしナビ面17日(木)

今年も栗の季節を迎えました。でも、自分で調理するのは結構大変。おいしい実にとどり着くまでには、硬い鬼皮、実に張り付いた渋皮などを、むかなければなりません。「栗むきの達人」が、簡単にキレイに皮をむくコツを指南します。

